

走れることに感謝して

先の日本選手権で翔太がオリンピック標準記録Aを切ったときは、見ていて涙がこぼれてきました。遂にここまでできたかと感じた瞬間でした。

翔太が、初めて私のところに来たのは、彼が小学3年生の時でした。既に身長は6年生ぐらいありました。よく食べて、よく寝る。そんな子でした。

「小笠AC」は、御前崎市をはじめ近隣の牧之原市、菊川市、掛川市から陸上が好きなお子もたちが集まって、楽しく練習しているクラブです。自分が指導者として教えてきたことは、強くなっても他人から尊敬されて好かれる人にならなければいけないということ。走れるような体に産んでくれた両親、練習できる環境をつくってくれた地域の皆様にも感謝しなければいけません。速くなることより人に好かれることが大事です。自分は、腕の振りがどうだとか足の運びがどうだとか言ったことはありません。それぞれの個性を尊重し、その子の長所を伸ばすよう心掛けています。

翔太は、中学校へ入ってから

も部活と並行して小笠ACの練習に顔を出していました。翔太のスピードでは、中学校のグラウンドはカーブがきつすぎるのです。浜岡総合グラウンドの広いトラックで走ることができたことは恵まれていました。土のグラウンドだけでなくタータン（全天候型陸上競技場のトラック部）に張られているポリウレタンのこと）のトラックを走ることでできたのも良い結果につながりました。

さらなる成長を願って

まだ21歳だから、ロンドンオリンピックを経験して、次のリオデジャネイロでも活躍してくれると思います。2000年で20

秒のタイムを切るのは、おそらく日本人では翔太が最初になるでしょう。一つ一つの大会を通じて翔太が成長してくれればいいと思います。陸上は個人競技だからグラウンドの上では誰も助けてくれません。今までもいくつもの壁を乗り越えてきたことと思いますが、翔太ひとりです。ここまで来たわけではありません。家族をはじめ地域の支えと中学、高校、大学と良き指導者に巡り合えたからこそここまで来ることができたのです。

ここまでくれば、あとは本人が上手に仕上げて体調をベストに持っていつてくれることを願うだけです。地元の皆さんの応援も、必ずや翔太の力になると信じています。



小笠AC監督

恩田勝美さん



浦海俊次さん
(浜岡中1年時 陸上部顧問)

オリンピック出場を決めた大会をテレビで見っていました。鳥肌が立ちましたね。ケガを乗り越えて世界を目指す彼の姿は、私たちに勇気と希望を与えてくれます。

当時の石原校長が「飯塚君は世界で戦える逸材だ」と常々おっしゃられていたことを思い出します。私は、陸上専門ではないので、彼には、もっぱら精神面のことを口うるさく言っていたように思います。高校、大学と進学し、厳しい環境の中、陸上を続けることができたのも、多くの人の支えがあったからこそと感謝し、ロンドンでは、みんなに夢と希望を与えられるような走りを見せてくれれば嬉しく思います。今はオリンピックに集中する時ですが、これが終わって落ち着いたら、ぜひ母校の浜岡中学校に立ち寄り、後輩たちの練習する姿を見てやってほしいと思います。



小野芳彦さん
(浜岡中2・3年時 陸上部顧問)

彼は、当時から日本一になりたい、オリンピックに出たいと言っていましたから、私の役目は、彼を中学生日本一にすることと将来への伸び代を作っておかなければならないということでした。短距離の専門的なトレーニングは極力やらないで、走り幅跳びや長距離などいろいろな種目に取り組ませ、土台となる体力を付けさせることに重きを置きました。将来性があるのは確かでしたから、とにかく無理はさせたくなかったのです。

彼は、陸上競技の才能もさることながら、人間的にも素直で感謝の気持ちを持つことができ、素晴らしい生徒でした。

今回のオリンピックでは、勝敗は別として、実力を出し切って自己ベストを狙ってほしいですね。まだまだ粗削りな選手ですから、将来が期待されます。4年後のリオデジャネイロ大会も楽しみです。